

報 雜

◎人 事

九州帝國大學教授 庄 司 義 治
陞叙高等官三等

(九月一日)

叙從七位 西 丸 和 義
(八月十五日)

叙從四位 正五位勳四等 稻 田 進
(九月一日)

從七位 安 田 常 男

從七位 古 田 壽 次

從七位 三 木 良 定

叙正七位
(九月一日)

岡山醫科大學助教授 林 香 苗
本俸八級俸下賜

(九月十四日)

叙從五位 正六位 庄 司 義 治

叙從六位 正七位 森 定 惠

(九月十五日)

○村上隆徳君 は今般大阪北野病院を辭し東京市神田橋綜合病院耳科に勤務せられたり

○岡崎 哲君 は今般山口縣柳井同生病院を辭し高松市日本赤十字社香川支部病院産婦人科に勤務せられたり

○藤田良三君(姓姓怡土) 既記の如く岡山醫科大學助教授を辭せられたる同君は今般福岡縣浮羽郡吉井町に於て開業せられたり

○武野一雄君 は今般岡山醫科大學精神、神經科教室を辭し岡山市東中山下に於て開業せられたり

矢吹浩君 は大正4年岡山醫學專門學校を卒業し大阪市友廣胃腸病院に勤務し後同市東區船越町2丁目に於て開業し居られしか本月上旬病氣に罹り靜養中なりしか本月11日遂に遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

布留幾作君 は明治31年第三高等學校醫學部を卒業し滋賀縣甲賀郡寺庄村深川市場病院に於て診療に従事し居られしか本月12日病を以て遠近せられたりと寔に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

新免精君逝く 君は大正9年岡山醫學專門學業を卒業し東京市額田病院に勤務し一昨年同院鎌倉町保養院に轉勤今日に至りしか本月3日永眠せられたりと寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

淺野賢之助君逝く 君は明治30年第三高等學校醫學部を卒業し直ちに岡山縣病院小兒科に勤務し後松江市末次町に於て開業し居られしか本月24日急病にて永眠せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

木下正之、吉田豐太、竹村慶治の3君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか本年7月

4日の教授會を通過し本月2日醫學博士の學位を授與せられたり。又松枝新、西丸和義、桑原良一の3君も論文を同大學に提出し學位を請求し居られしか本年7月18日の教授會を通過し本月26日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

木下正之君

主論文

「エフェドリン」ト「ミドリアチン」トノ作用ノ比較
 竝ニ「エフェドリン」作用ノ特性ニ就テ

第1報 血管作用ニ就テ（本誌第42年第11號ニ發表セリ）

第2報 諸種摘出臟器ニ對スル作用ニ就テ（本誌第43年第3號ニ發表セリ）

第3報 他藥物トノ關係ニ就テ（本誌第44年第1號ニ發表セリ）

參考論文

1. 「エフェドリン」、「エフェトニン」及ビ「ブソイドエフェドリン」ノ作用特ニ抑制性交感神經作用ノ比較研究（昭和6年4月第5回日本藥理學會總會ニテ發表セリ）
2. 榮養液中「カルチウム」量ノ増減ガ「エフェドリン」、「ミドリアチン」及ビ「アドレナリン」ノ血管作用ニ及ボス影響ニ就テ（昭和6年4月第5回日本藥理學會總會ニテ發表セリ）
3. 人輸卵管ノ藥理學的研究（木下正之、村上憲佑共著）（本誌本號ニ發表セリ）
4. 人及ビ動物子宮ニ對スル「ヒニオン」作用（木下正之、村上憲佑共著）（追テ本誌ニ發表スベシ）
5. 「アミノ」酸ノ「アドレナリン」「エフェドリン」及ビ「ミドリアチン」ノ血管作用ニ及ボス影響ニ就テ（追テ本誌ニ發表スベシ）

吉田豊太君

主論文

其1. 心臟原基ノ發生ニ就キテ

（鳥類殊ニ家鳩ニ於ケル檢索）（本誌第43年第11號ニ發表ス）

其2. 心臟原基ノ發生ニ關スル研究

（哺乳類殊ニ豚胎兒ニ於ケル房間障ノ形成ニ就キテ）本誌第44年第2號ニ發表ス）

參考論文

其1. 家鴨ニ於ケル心臟原基ノ癒合ニ就キテ（岡山醫科大學歐文業府第3卷第1號ニ發表ス）

其2. 兩棲類心臟原基ノ發生ニ關スル研究補遺（追テ本誌ニ發表ノ豫定）

其3. 肺靜脈ノ發生ニ就キテ（十姉妹ニ於ケル檢索）（本誌第44年第2號ニ發表ス）

其4. 「テルミン」ノ家兎血壓ニ對スル作用ニ就キテ（吉田豊太、蓮池堯民共著）（本誌第40年第3號ニ發表ス）

其5. 岡山地方專賣局職工ノ血壓ニ就テ（勞働保健衛生資料第4號ニ發表ス）

竹村優治君

主論文

瞳孔徑ニ關スル研究

其1. 瞳孔徑測定ノ生理學的條件ニ就テ（勞働科學研究第8卷第1號ニ發表セリ）

其2. 瞳孔徑ノ性的年齡の相異ニ就テ（勞働科學研究第8卷第4號ニ發表セリ）

其3. 瞳孔徑ノ日時的變化ニ就テ（勞働科學研究第9卷第1號ニ發表セリ）

參考論文

1. 眼ノ調節時間ニ關スル研究

調節時間ト疲勞トノ關係（勞働科學研究第9卷第1號ニ發表セリ）

2. 作業面ノ照度ノ變化及ビソレヲ支配スル重要ナル因子ニ就テ (竹村慶治, 江田周三共著) (勞働科學研究第9卷第2號ニ發表セリ)
3. 眩暈ニ關スル實驗的研究 (追テ勞働科學研究ニ發表ノ豫定)
4. X線ニテ處置セル結核性淚囊炎ノ1例 (アメリカン. ジャーナル. オブ. レントゲン. エント ラヂウムセラピー. 1931年8月號ニ發表セリ)
5. 高血壓蛋白尿ヲ有セル患者ニ見タル結核性ト見做シ得ベキ一種ノ網膜出血白斑ニ就テ (眼科臨牀醫報第25年第6號ニ發表セリ)
6. 齶蝕齒ニ原因セル眼窩蜂窠織炎 (中央眼科醫報第22卷第4號ニ發表セリ)
7. 崩壞性角膜實質炎ニ就テ (中央眼科醫報第22卷第3號ニ發表セリ)
8. 子癇ニ前驅セル一過性黒内障ニ就テ (中央眼科醫報第22卷第3號ニ發表セリ)

枝 松 新 君

主 論 文

「ヒスタミン」ノ生物學的作用ニ關スル研究

- 其1. 「ヒスタミン」死動物諸種臟器ノ形態學的所見ニ就キテ (本誌第43年第11號ニ發表セリ)
- 其2. 「ヒスタミン」注入ニヨル胃内潰瘍形成ニ就キテ (邦文ハ本誌第43年第11號, 歐文ハ獨逸臨牀醫事週報1931年第49號ニ發表セリ)
- 其3. 「ヒスタミン」注入動物諸種臟器組織ノ抗「エオジン」嗜好性ニ就キテ (本誌第44年第4號ニ發表セリ)
- 其4. 「ヒスタミン」ト血糖價及ビ體溫トニ關スル實驗的研究. 其1(本誌第44年第4號ニ發表セリ)

其5. 「ヒスタミン」ト血糖及ビ體溫トニ關スル實驗的研究. 其2(本誌第44年第4號ニ發表セリ)

其6. 「ヒスタミン」ト血糖價及ビ體溫トニ關スル實驗的研究

「ヒスタミン」竝ニ「アドレナリン」注射ガ血糖量及ビ體溫ニ及ボス影響ノ比較研究 (本誌第44年第4號ニ發表セリ)

其7. 「ヒスタミン」ト血糖價及ビ體溫トニ關スル實驗的研究

「ヒスタミン」ト自律神經毒, 殊ニ「アドレナリン」, 「アトロピン」, 「エルゴタミン」, 又「インシュリン」等トノ交互作用ニ就キテ (本誌第44年第4號ニ發表ス)

參考論文

1. 急性蟲瘻突起炎ト内臟轉錯 (大腸炎ト診斷セラレ「イレウス」ト疑セラレ更ニ腹膜炎ト診セラレタル急性蟲瘻突起炎ノ1例 附. 内臟轉錯) (本誌第314號ニ發表セリ)
2. 右側小腦橋角腦腫ノ1例 (本誌第43年第1號ニ發表ス)
3. 流行性腦炎ニ就キテ (特ニ大正元年ヨリ昭和4年ニ至ル過去18年間ノ回顧録) (醫海時報第1841號ニ發表セリ)
4. 流行性腦炎(B型)後ニ於ケル眼瞳孔ノ變化ニ就キテ (醫學研究第6卷第4號ニ發表セリ)

西 丸 和 義 君

主 論 文

1. 肝臟ヨリスル色素ノ排泄ニ就イテ (本誌第40年第8號ニ發表セリ)
2. 肝臟機能ニ關スル研究 (本誌第40年第9號ニ發表セリ)

3. 血色素ヨリノ肝臟内臟液汁成生 (米國生理學雜誌第 97 卷第 4 號ニ發表セリ)

參考論文

1. 腎臟ヨリスル色素ノ排泄ニ就イテ
附. 糖ノ排泄 (本誌第 40 年第 7 號ニ發表セリ)
2. 肺臟ニ至ル血管運動神經ニ關スル研究 (本誌第 397 號ニ發表セリ)
3. 胃, 腸, 脾臟及ビ腎臟ニ至ル血管運動神經ニ關スル研究 (本誌第 40 年第 10 號ニ發表セリ)
4. 血液中ノ炭酸瓦斯結合状態ニ就イテ (林香苗, 奥山美佐雄, 西丸和義共著) (日本生機學雜誌第 2 卷ニ發表セリ)
5. 「チアノーゼ」ヲ呈セル皮膚ノ血流ノ度合 (パークロフト, ベナツト, グリーソン, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 73 卷 344 頁ニ發表セリ)
6. 血球ノ肝臟通過ニ要スル時間ノ觀察 (パークロフト, レイ, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 44 頁ニ發表セリ)
7. 脾臟ノ週期的收縮ニ就テ (パークロフト, カーナー, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 291 頁ニ發表セリ)
8. 脾臟ノ週期的收縮ノ原因ニ就テ (パークロフト, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 299 頁ニ發表セリ)
9. 血壓ノ波狀ノ變化ニ就イテ (パークロフト, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 311 頁ニ發表セリ)
10. 内臟神經ノ脾臟ヘノ作用 (パークロフト, ブリー, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 327 頁ニ發表セリ)

11. 脾臟血管ノ構造ト作用ニ關スル觀察 (ステゲルダ, 西丸和義共著) (英國生理學雜誌第 74 卷 327 頁ニ發表セリ)

桑 原 良 一 君

主 論 文

- 口蓋扁桃腺内ニ於ケル放線狀菌ニ就テ
- 其 1. (大日本耳鼻咽喉科會々報第 36 卷第 2 號ニ發表セリ)
 - 其 2. (同誌第 37 卷第 5 號ニ發表セリ)

參考論文

1. 小兒ノ口蓋扁桃腺並ニ咽頭扁桃腺内ニ於ケル放線狀菌塊ニ就テ (大日本耳鼻咽喉科會々報第 37 卷第 9 號ニ發表セリ)
2. 口蓋扁桃腺ト「アクチノミコーゼ」(「グレンツゲビート」第 5 年第 12 號ニ發表セリ)
3. 口蓋扁桃腺々窩内ニ見ル重層毳毛上皮ニ就テ (大日本耳鼻咽喉科會々報第 37 卷第 5 號ニ發表セリ)
4. 扁桃腺囊腫ニ就テ (大日本耳鼻咽喉科會々報第 37 卷第 11 號ニ發表セリ)
5. 聲帯ノ先天性上皮囊腫ニ就テ (耳鼻咽喉科第 4 卷第 4 號ニ發表セリ)
6. 總頸動脈破裂ヲ來セル食道周圍瓦斯蜂窠織炎ノ 1 例 (耳鼻咽喉科第 4 卷第 8 號ニ發表セリ)

◎ 正 誤

- 本誌第 511 號秋本運廻君論文, 歐文抄録中.
- | | |
|-----------------|--------------------|
| 頁 2266 下ヨリ 11 行 | 誤 Antitussin (1mg) |
| | 正 Antitussin (2mg) |
| 下ヨリ 10 行 | 誤 Scopolamin (2mg) |
| | 正 Scopolamiu (1mg) |